

【調査報告】

## 世界のウチナンチュ大会から異文化を学び、自文化理解へ

# Learning Different Cultures from the World Uchinanchu Festival and Understanding Better Its Own Culture

嘉納 英明, 神山 英

### 要旨

本報告は、小学校6学年社会科の単元「日本とつながりの深い国々」の授業実践記録である。この単元は、「日本とつながりの深い国々」の学習を通して異文化理解や多文化共生について学ぶ内容であり、日本は諸外国と様々な形でつながっていることに気づかせることをねらいとしている。本授業では、特に、「世界のウチナンチュ大会」を教材化し、大会に参加する外国人の生活・文化、習慣を調べたり、日本・沖縄とどのような結びつきをしているのかを考えたりすることで、異文化理解を深め、自分たちの住む地域の魅力・よさ（自文化）を見つめなおす機会としている。

キーワード：世界のウチナンチュ大会、異文化理解、つながり

### はじめに

小学校6学年社会科の単元「日本とつながりの深い国々」は、3学期の教育課程に位置づけ、異文化理解や多文化共生について学ぶ内容である。縄文・弥生時代の学習から始まり、近現代史までを扱ってきた歴史学習と異なり、現在の国々の関係について学ぶことから、子どもの関心の高い単元でもある。一般的な傾向として、日本と関係の深い国を子どもに問うと、圧倒的に米国を挙げ、次に、隣国の中国や韓国を挙げる。さらに米国について知っていることを問うと、自由の女神やオバマ大統領、スポーツ選手や音楽に至るまで次々と発言が続く。一方、中国や韓国についての情報は限定的であり、東南アジア諸国については国名も出ないほど、子どもは情報を持ち合わせていない。日本は米国や中国を始め、諸外国との交流を深めてきたのであるから、これらを子どもに気づかせるとともに、異文化にふれさせる学習の機会を、益々大切であろう。

以上のことから、今回、「日本とつながりの深い国々」の実践の中で、異文化理解や多文化共生について考える機会を設定し、また、日本とつながりの深い国々について理解すること、様々なつながり方があることに気づかせることをねらいとした。授業者は、子どもが様々な

つながり方に気づく教材の開発が求められるが、本授業では、「世界のウチナンチュ大会」を教材化し、この学習を通して、日本・沖縄が世界とつながっているという単元の目標に迫ることができると考えた。

本授業は、2015年2月12日～13日に沖縄県で開催された、平成26年度全国小学校社会科研究協議会研究大会（会場：うるま市立川崎小学校）における公開授業であり、同年6月、山形県で開催された全国小学校社会科研究大会（会場：山形市立東小学校）において事例発表したものである。神山（沖縄市立コザ小学校教諭）は、教材開発から授業実践と記録に至るまで中心的な役割を果たし、嘉納は、共同研究者として、教材の共同開発、全国大会（沖縄県、山形県）において指導助言者として関わった。なお、本稿は、神山が主筆し、嘉納は、全体構成と「はじめに」と「おわりに」を執筆した。

### I. 本単元に関わるこれまでの実践と課題

単元「日本とつながりの深い国々」は、小学校社会科の最終単元であり、学習指導要領第6学年の内容(3)に位置付けられている。子どもが興味関心のある国を選択し、その国の生活や文化、習慣などを調べながら、自分が住む国や地域と比較したり関連させたりすることで、異文

化理解や多文化共生について考える学習である。

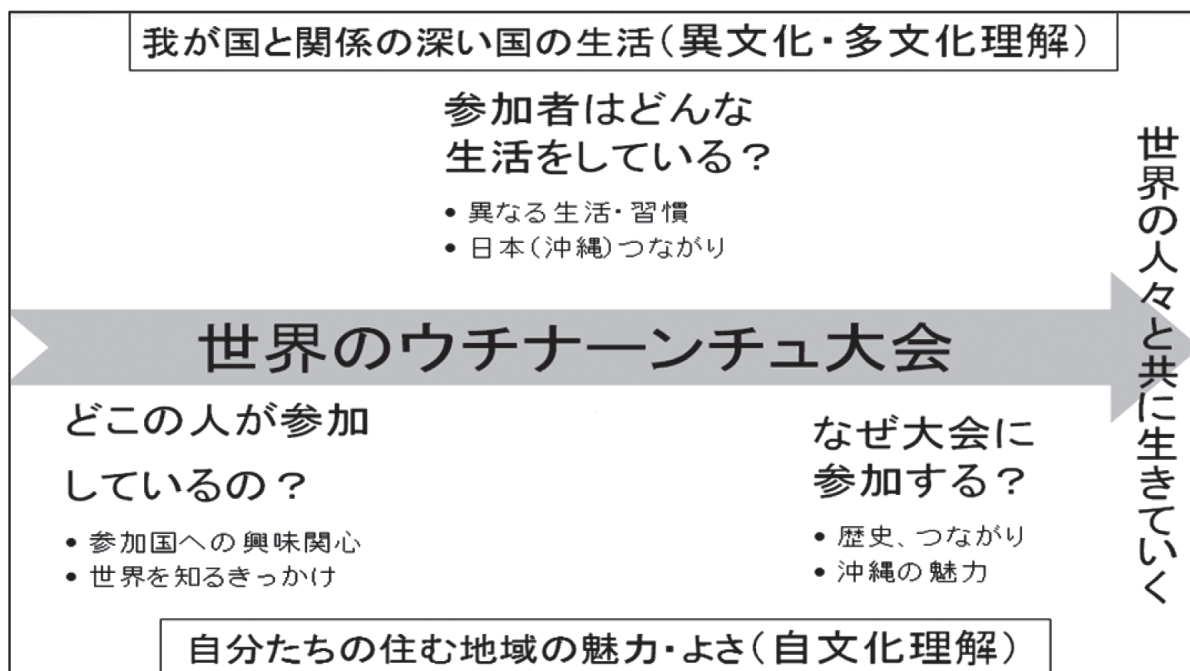
一般的に、身近な外国の人やものとのつながりに触れさせるなどの工夫を単元導入で行い、教科書に取り上げられた4カ国を中心に図書資料やインターネット検索などで調べ学習を展開していき、単元まとめにおいて、お互いが調べてきたことを共有しながら異文化理解について考えるという進め方である。今回の授業実践の特に単元導入部では、子どもに外国（異文化）をより身近に感じてもらうと、地域に住む外国人との交流や衣食住における外国とつながりのあるものを教材として取り上げた。また、沖縄の地域素材としての「世界のウチナーンチュ大会」を取り上げることで、日本・沖縄と諸外国の結びつきを実感の伴う学習内容として組み立てた。なお、写真（掲載）の人物の掲載については、本人又は保護者の同意を得ている。

## II. 単元全体をつなぐ地域素材の開発

本単元は、「世界のウチナーンチュ大会」の学習を切り口にして、世界には様々な文化や習慣をもつ国や地域があること、日本（沖縄）とつながりがある外国が数多くあること、そしてそのような国々とどのように関わっていけばよいかを、地域との関わりをふまえて考えていくことをねらうものであった（「資料. 単元全体構想」参照）。

## III. 単元計画

- 1 小単元名  
日本とつながりの深い国々～世界とつながるウチナーンチュ～
- 2 小単元の目標  
日本・沖縄とつながりが深い国々の人々の生活の様子や世界のウチナーンチュ大会の取り組みを調べて学び合うことを通して、世界の人々と共に生きていくためには、異なる文化や習慣を理解し合い、お互いを尊重していくことが必要であることをとらえさせる。
- 3 指導展開  
(社会12時間+総合的な学習の時間4時間)



資料. 単元全体構想

過程 (時数)	指導目標	学習活動	指導上の留意点	評価規準
つかむ (2)	1. 世界のウチナンチュ大会に参加する外国人			
	世界のウチナンチュ大会には様々な国から多くの人たちが参加していることを知り、沖縄と外国とのつながりに気づくことができる。	大会の画像や映像を見て、気づいたことを発表する。 肌の色、着ているものなど文化の違いから外国人が参加していることを知る。	どこから参加しているか、なぜ参加するかを予想させる。 地図帳や地球儀を活用してとらえる（国の位置や地形、北極や南極、赤道、大陸名の確認）	【関心・意欲・態度】 世界のウチナンチュ大会を知り、沖縄と外国とのつながりに興味を持つことができる。
	世界のウチナンチュ大会に参加する人たちの国は、どんな生活や文化、習慣をもっているのだろう。			
	大会に参加する外国人や留学生の話聞いて、その国の地理的環境の特徴、気候の特徴などによる生活環境の違いに気づき、日本と世界の国々とのつながりについて学習問題を立てることができる。	ゲストの話をもとにしながら、その国の様子を聞き取る。地理的環境の特徴、気候の特徴などによる生活環境の違いに気づき、学習問題を設定する。	ゲストに話す内容を事前に伝える。国の基本的な事柄（位置、面積、人口、首都、言語、あいさつの言葉など）生活用品や写真等も活用したい。	【関心・意欲・態度】 外国の地理的環境の特徴、気候の特徴などによる生活環境の違いを聞き、学習問題を立てることができる。
	世界の人たちの文化や習慣は、私たちとどのようにちがうのだろう。また、日本・沖縄とどのようなことで深く結びついているのだろうか。			
調べる (5)	2. 世界の国々の生活や文化、習慣を調べよう			
	興味・関心や問題意識にもとづいて、調べたい外国を一つ決め、その国について調べていく計画を立て、学習の見直しを持てるようにする ※「学びの手引き」を参考に、調べる計画や方法を考える。	大会参加者や留学生の国から調べたい国を一つ選ぶ。 【調べる国】 北米 アメリカ 南米 ブラジル パルー アジア 中国、韓国 欧州 ドイツ	どういう興味や問題意識で、どういう方法でその国を調べるのかを考えさせる。 最後に発表させることも念頭に置き、相互の学習成果を効果的に交流させるために共通の観点を取り入れる。	【関心・意欲・態度】 参加者の国について調べる意欲を持つことができる。 【技能】 何を利用してどのように調べるのか、学習手段の見直しを持つことができる。
	学習計画にそって、自分の問題を解決するために調べることができる。  調べる共通の観点 ①人やものの行き来 ②国土の特徴 ③暮らしの様子 ④習慣や文化は日本とどうちがうか？ ⑤日本から伝わったものはあるか？	教科書や地図、地球儀、図書資料、統計資料、インターネット、その他の資料などで調べる。 ゲストティーチャーから聞き取りをしたり、異文化を体験したりする。 ※「学びの手引き」を参考に資料提示の仕方を考えさせる。	日本とのちがいやつながりについて意見交流することを念頭において調べ学習をさせる。 ひとり一人の計画に目を通し、調査方法をアドバイスしたり、入手が困難なものは事前に準備しておいたりする。	【技能】 教科書や地図帳をもとに、自分の調べたいことに応じた資料を探して、調べることができる。 【知識・理解】 調べた国の特色をつかみ、日本とのつながりについて理解することができる。

過程 (時数)	指導目標	学習活動	指導上の留意点	評価規準
深める (2)	3. 調べたことを発表しよう			
	<p>調べてきたことを発表し、話し合うことを通して、学習の成果を共有することができる。</p> <p>調べた国の特色を学び合い、世界の国々と日本・沖縄とのつながりについて相違点や類似点を見つけ、その関わりについて見方や考え方を広げ深めることができるようにする。</p>	<p>発表会の進め方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表のポイント</li> <li>・聞くのポイント</li> <li>・発表が終わったら</li> </ul> <p>ポスターセッション形式で発表し、学習成果を共有する。感想や疑問、意見を出し合いながら、世界の国々と日本・沖縄との関わりについて考える。</p>	<p>発表会の目的、伝える相手、伝える内容を事前に確認する。</p> <p>「学びのてびき」も参考に、発表内容を考えさせる。</p> <p>日本・沖縄とのつながり、それぞれの国の共通点や特色などを見出すために比較して考えさせる。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>調べたことや友だちの発表から、自分が調べた国の特色をつかみ、世界の国々と日本・沖縄がどのようにつながっているのかを考え、表現することができる。</p>
	<p>世界の人たちとともに生きるためにどのようにすればよいのだろう。 どうして世界のウチナーンチュ大会には異文化の人たちが多く集まるのだろう。</p>			
生かす (3)	4. ともに生きる道～世界とつながるウチナーンチュ～			
	<p>世界のウチナーンチュ大会を調べ、異なる言語・歴史・文化などを持つ人たちが、諸問題を乗り越え、沖縄というつながりを大切にしながら絆を深めていることを知る。</p>	<p>大会の目的や意義をプログラムやポスターから読み取ったり、大会にかかわる人たちから聞き取ったりする。</p> <p>参加者から大会参加への思いや喜びを聞き取る。</p>	<p>全体で共有して読み取りたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大会参加地図</li> <li>・プログラム</li> <li>・ポスター</li> </ul> <p>グループ別に聞き取り活動を行うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主催者の思い</li> <li>・参加者を調査した方の思い</li> <li>・参加者の声や手紙</li> </ul>	<p>【知識・理解】</p> <p>異なる文化をもつ人たちが沖縄を大切にしながら、沖縄というつながりを大切にしながら絆を深めていることを知る。</p>
	<p>参加者や参加地域の広がり等から、世界のウチナーンチュ大会が継続している理由と、沖縄の良さをつなげて考え、外国の人たちとともに生活していくために大切なことは何か自分なりに考えることができる。(本時)</p>	<p>大会の継続、参加者や地域の広がりを読み取り、その理由や沖縄のよさを考える。</p> <p>大会から世界の人たちと共存・共生していくためのヒントをつかむ。</p>	<p>大会の継続、世界中への広がりを視覚化する。</p> <p>前時までの学習を生かしながら、沖縄のよさを考えさせる。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>外国の人たちと共に生活していくために大切なことを学び合い、自分なりの意見を持つことができる。</p>

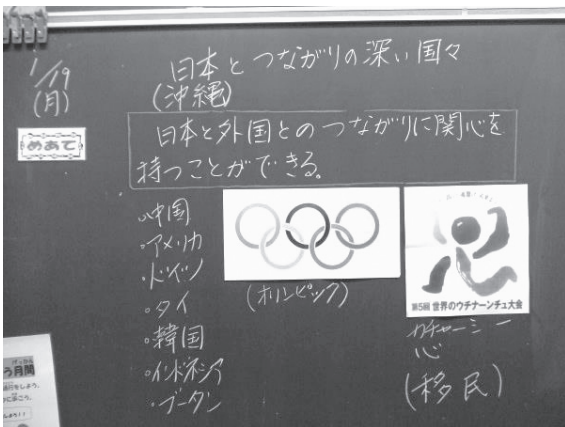
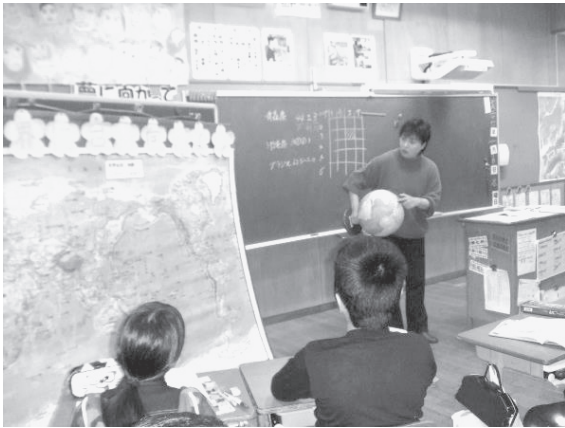


#### IV 実際の学習

##### 第1時

世界のウチナーンチュ大会には、様々な国から多くの人たちが参加していることを知り、沖縄と外国とのつながりに気づく。(世界のウチナーンチュ大会のDVD視聴)

大会に参加する人たちの国は、どんな生活や文化、習慣をもっているのだろうか。



大会のDVD視聴後、参加している国の位置や沖縄からの距離を世界地図や地球儀で確認する。

##### 第2時

大会に参加する方の話を聞いて、その国の地理的環境の特徴、気候の特徴などによる生活環境の違いに気づき、日本と世界の国々とのつながりについて学習問題を立てる。(留学生ゲスト)

世界の人たちの文化や習慣は、私たちとどのようにちがうのだろうか。また、日本・沖縄とどのようなことで深く結びついているのだろうか。



大会に関係する沖縄への留学生が授業に参加。



他国の位置、面積、人口、首都、言語、あいさつなど、文化の違いにふれる。

##### 第3時

調べたい外国を一つ決め、その国について調べていく計画を立て、学習の見通しを持つ。

##### 第4時

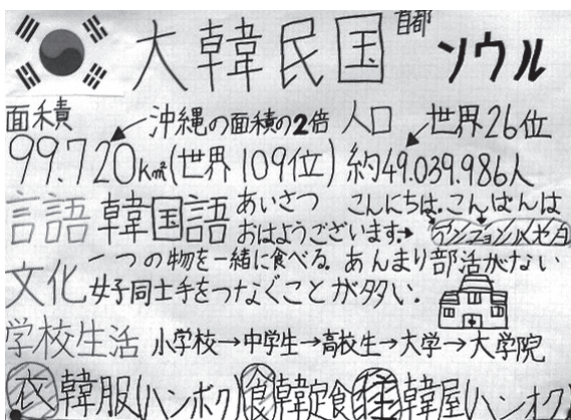
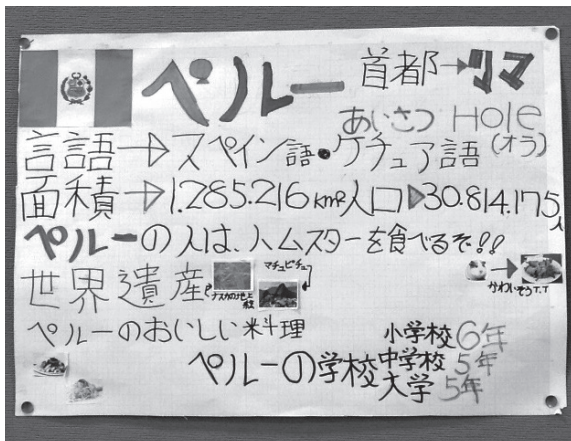
学習計画にそって、自分の問題を解決するために調べることができる。

選んだ国を図書資料やネット検索、そして留学生や地域の方から聞き取って調べた。

##### 第5～7時

世界の国々の生活や文化、習慣を調べよう。(総合的な学習の時間)

- ①人やものの行き来
- ②国土の特徴
- ③その国の暮らしの様子
- ④習慣や文化は日本とどうちがうか？
- ⑤日本から伝わったものはあるか？



移民などでウチナンチュが多く集まる国、そして様々な文化に触れてもらうために、各大陸から調べる国を取り上げた。北米(アメリカ)、南米(ブラジル・ペルー)、アジア(中国、韓国)、欧州(ドイツ)。

第8時

調べてきたことを発表し、話し合って学習の成果を共有する。(総合的な学習の時間)



発表は、ポスターセッション形式。新聞・パワーポイントなどの発表方法で相手に調べた国のことを分かりやすく伝えた。

(発表のポイント)

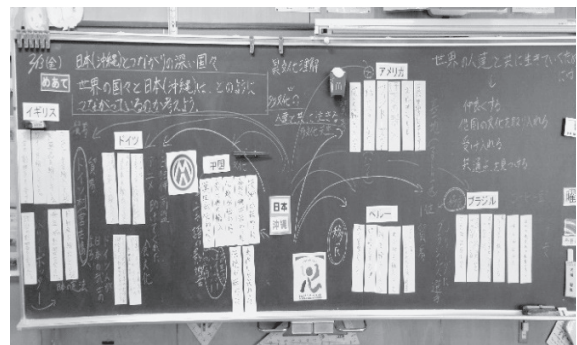
- ・話す順序や時間配分
- ・聞き取りやすい話し方や声の大きさ
- ・質問や意見を聞く

(聞くときのポイント)

- ・自分の調べた国と比較したり関連させたりして聞く
- ・発表後、疑問や感想を伝える

第9時

お互い調べた国の特色を学び合い、世界の国々と日本・沖縄とのつながりについて相違点や類似点を見つけ、その関わりについて見方や考え方を広げ深めることができるようにする。



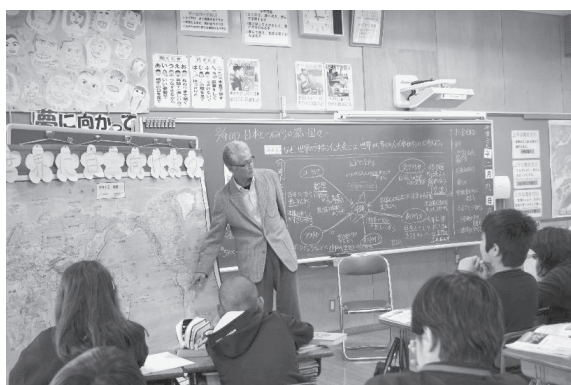


黒板を世界地図に見立てて、日本・沖縄とのつながりを意識させる。グループで調べたつながりについて黒板にカードで書き込み、黒板に貼って共有する。

#### 第10時

世界の人たちとともに生きるためにどのようにすればよいのだろうか。どうして世界のウチナーンチュ大会には異文化の人たちが多く集まるのだろうか。

移民を取材した方をゲストに招き、大会に参加する人たちはどのような人たちで、なぜ参加するのかについて調べる。



ゲストから「なぜ、世界のウチナーンチュ大会に参加するのか」について聞き取る。戦前・戦後の沖縄の移民について取材を続ける前原信一さんから、移民した国で活躍してきた人たち、沖縄文化や大切にしている生活などを紹介してもらった。

大会に参加する多くの人々が「親や自分のルーツを探したい」「親戚に会いたい」など、沖縄とのつながりを求めて参加していること、そして、沖縄に対する憧れや誇りを強める機会になっていることを教えてもらった。

#### 第11時

大会を主催した関係者を招き、なぜ大会を開いたのか、なぜ多くの人が集まるのか、これからの大会の動向について調べる。

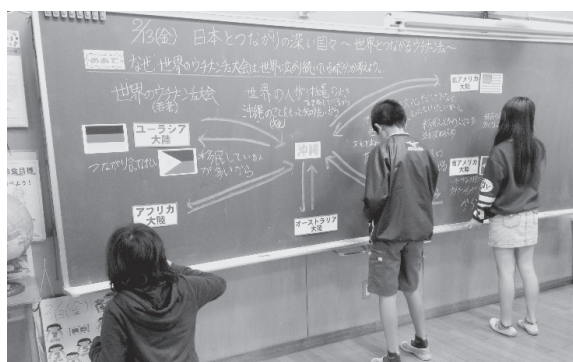


世界のウチナーンチュ大会を主催し、計画した知念英信さんをゲストに招く。大会を開ききっかけやその思いについて語ってもらった。他県にも多くの移民者がいる中で、沖縄の絆やアイデンティティが大会を成功させるに至ったことを教えてもらった。

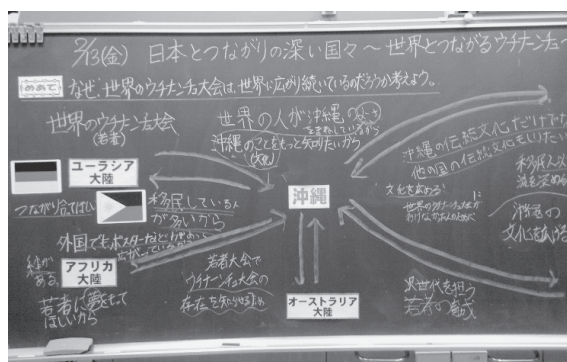
また、現在では若者たちによる大会が開かれるようになり、老若男女が集う世界大会になっていて、沖縄文化が広がっていることを紹介してもらった。

#### 第12時

参加者や参加地域の広がりを知り、世界のウチナーンチュ大会が継続している理由と沖縄の良さをつなげて考え、外国の人たちとともに生活していくために大切なことは何か自分なりに考えることができる。(IV. 本時(公開授業)の学習)。



世界地図に見立てた黒板に調べたことを書く



沖縄の大会に参加する理由を書き込む。

#### IV. 本時（公開授業）の学習

##### (1) 本時の目標

参加者や参加地域の広がりを知り、世界のウチナンチュ大会が継続している理由と沖縄の良さをつなげて考え、外国の人たちとともに生活していくために大切なことは何か自分なりに考えることができる。

##### (2) 準備または資料

児童：教科書、地図帳、ノート

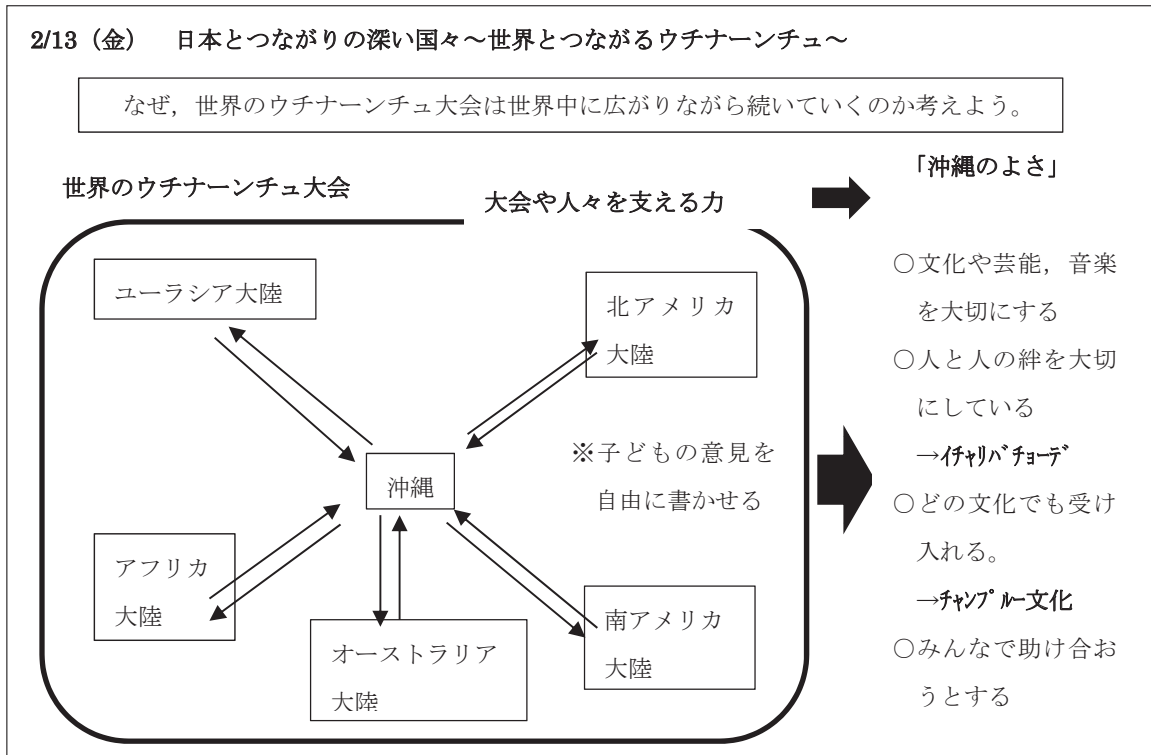
教師：世界地図、地球儀、これまでの学習資料（掲示）

##### (3) 本時の展開

過程	学習内容	☆児童の活動 □反応	○つきたい力と ●支援 ◇評価
導 入	1. 世界のウチナンチュ大会が、世界中に広がり続けていることを読み取る。	☆国旗クイズから、世界若者ウチナンチュ大会の開催地を知る。 □ブラジル、アメリカ、ドイツ ☆開催国の位置や沖縄との距離を考えながら黒板に国旗を貼る。 □ブラジルは南米だから遠い □フィリピンはアジア	●国旗クイズで全員が意欲的に参加できるようにする。 ●世界地図を黒板に見立て、沖縄と開催国との位置関係を視覚化する。 ○大会の世界的な広がりをとらえる。
	2. 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">なぜ、世界のウチナンチュ大会は世界中に広がり続けていくのか考えよう。</div>		
展 開	3. 世界中に広がりながら続いていく理由を考え、グループで話し合う。	☆自分の考えをノートに書く。 ☆グループで意見を出し合い、吟味して黒板に書き出す。 □沖縄の魅力が伝わる □家族、親戚、仲間に会える □異文化の交流ができる	●グループ交流や板書から、新しい意見をノートに書き込むよう指示する。 ○グループや板書で交流した友だちの考えから、新たな見方や考え方をつかむ。
	4. 世界のウチナンチュ大会やそれに関わる人々の原動力を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">世界のウチナンチュ大会やそれにかかわる人たちを支えている「沖縄の力」とは何か考えよう。</div>	☆これまでの学習をもとに、大会を支える力（沖縄のよさ）について考える。 □伝統文化を大切にしている □歌や三線など音楽を楽しむ □イチャリパチョウデー、チャンプルー文化、ユイマール精神	●板書事項や子どもの発言をつなぎ、沖縄のよさについてまとめる。 ○支える力＝「沖縄のよさ」を理解し、再認識する。 ◇世界の人々と共に生きるために大切なことを学び合い、自分なりの意見を持つことができる。 【思考・判断・表現】
ま と め	5. これまでの学習をもとに、世界の人々と共に生きるこれからの自分について考える。	☆教師のまとめやこれまでの学習をもとに、自分なりの考えをノートに書く。	●これまでの学習と自分を重ねて数名に発表してもらい、まとめる。



(4) 板書計画

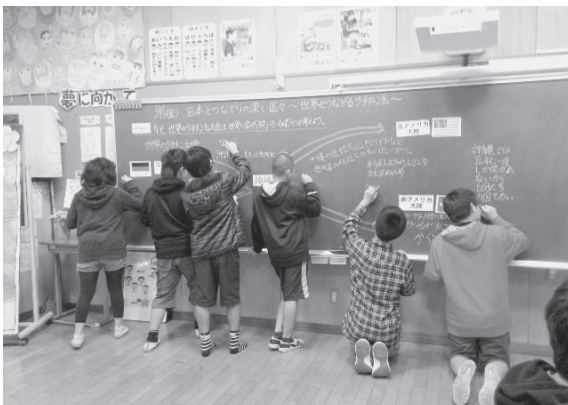


1. 世界のウチナーンチュ大会が、世界中に広がり続けていることを読み取る。

なぜ、世界のウチナーンチュ大会は世界中に広がりながら続けているのか考えよう。

国旗クイズなどを通して授業に全員参加を促し社会事象とつなぐ。また、黒板を世界地図に見立てて、世界中に広がっていることを視覚的に捉えさせた。

2. 世界中に広がりながら続いていく理由を考え、グループで話し合う。

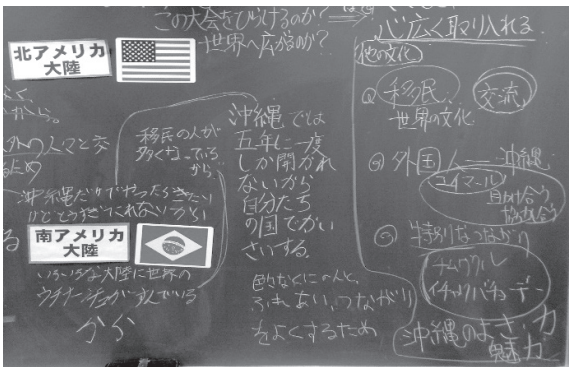


これまで調べた内容をもとに、自分の考えをグループで共有し、グループの意見として自由に黒板に板書させた。教師は散らばった様々な意見をつなぎ、まとめるという構造化をはかり、子どもたちの意見を集約して視覚化した。

3. 世界のウチナーンチュ大会やそれに関わる人々の原動力を考える。

世界のウチナーンチュ大会やそれにかかわる人たちを支えている「沖縄の力」とは何か。

世界のウチナンチュ大会が広がり続く理由、それを支える「沖縄の力」とは何か考えさせた。「なぜ、移民を出した都道府県で沖縄県だけが世界大会をなすことができるのか」という発問で子どもたちの思考の活性化を図った。



子どもたちは、自分たちで調べてきた他文化と自分の文化を比べながら考えたり、ゲストティーチャーの言葉をふり返ったりしながら、課題解決に向けてグループで意見を出し合いながら追究できた。教師は、全体共有の場で子どもの発言を板書し、発言に至るまでの思考のプロセスを引き出し整理した。

4. これまでの学習をもとに、世界の人々と共に生きるこれからの自分について考える。

世界の人々と共に生きるために、今の自分とこれからの自分について感想を書く。

授業の終末には、単元全体のまとめとして、①本時のめあてにつながること、②今の自分をふりかえり、「これからの自分について（発展）」で感想をまとめた。

授業や他者との交流から自分をふり返り、世界とのつながりや人と人のつながりを意識した感想が多く見られた。さらに、自分たちが住む沖縄の良さを再発見して、自分たちの文化理解を広げ深めた感想も見られた。

感想①

今日の学習で、なぜ沖縄だけがこの大会をひらけるのかと、考えさせられた。沖縄の良さや、大切にできることができた。また、この学習をして、次は、私達が外国に沖縄の事を伝えたいなと思いました。この学習で、沖縄は世界とつながっていると言う事を更に強めて良かったです。

沖縄と世界とのつながり、それを支える沖縄の良さや魅力という単元全体をまとめている。さらに、「自分の住む地域について発信していきたい」と今後の自分のあり方を見通している。

感想②

今日の学習でウチナンチュ大会がなぜ広がったのかを考えた。世界のことを勉強して、仲良くなってほしいのが目標と分かりました。世界へ目を開けることができました。

ゲスト「前原信一・知念英信さん」の未来へのメッセージを受けとめた感想。授業後、世界へ目を開ける自分を見つめている。

感想③

今日の社会の学習で、\*沖縄だけが開けることができた。自分について調べました。\*の課題が一番いいなと思った。発表は緊張しましたが、沖縄だけの特別なつながりというところについて、興味しました。これからは、社会を勉強して、自分の発表をしっかりとできるようにしたいと思います。

授業での友だちの発表に共感し、社会科学習の意味、自分の考えも伝えることの大切さを実感している。

感想④

私は、沖縄大になりすぎてほしいと思うので、沖縄のことをもっと知ってほしい。この系図にほこりをもちたいと思いました。

自分の地域を見つめ、沖縄の伝統や文化を再発見して、沖縄の良さについて考えている。地域を学習することで、沖縄に対する誇りが芽生えていると考える。

おわりにー成果と今後の課題ー

世界のウチナンチュ大会を教材開発したことで、単元全体を貫く問題解決的な学習を展開することができた。大会への参加国に触れることで多様な文化へ誘い、子どもが意欲的に調べ世界認識を深めることができた。そして、一地域の大会へ世界の人たちが参加する理由を考え、地域の歴史や大会の意義や目的を調べることで、沖縄と世界とのつながりや異文化の理解を深めた。さらに自分の地域を相対化してとらえる発展活動へつなげることができたのではないと思う。

また、実際の授業では「板書の構造化」に取り組むことで子どもの思考の深まりが見えた。黒板で世界地図を

表現し、世界と日本・沖縄のつながりを意識させたり、子どもの発言を整理し多様な考えのつながりを視覚化することで子どもの活発な交流につなげたりした。一方、子どものノートや発言をどのように評価するか、具体的な評価と方法、評価の開発が課題として残されている。

#### 参考文献

- ・嘉納英明「第6 学年 日本とつながりの深い国々～多様な考えを交わらせて、つなげる授業づくりをめざして～」(安野功監修『子どもとつくる豊かな学び』明治図書, 2004年, 所収)。
- ・『小学校学習指導要領 社会解説』文部科学省, 平成20年6月。



